

藤沢宿における歴史と今後のまちづくり方策

生物環境工学科 地域環境保全学研究室 10108138 平野拓人

1. 背景

現在、都市部への若年層の人材流失が深刻化しており、地方の町全体が活気を失っている。町に活気を取り戻すための地元住人による「まちおこし」活動が日本各地で行われている。まちおこしは地域資源を用いてその地域を活性化させることだが、その地域資源の中で最も多く取り上げられるものが神社や仏閣などの歴史資源である。

2. 目的

本研究では江戸時代に東海道五十三次の一つとして栄え、藤沢市に位置する藤沢宿を研究対象とし、地元住民団体としてまちおこし活動を行っている「藤沢宿まちそだて隊」の方々と協力しアンケート調査を実施した。

アンケートの結果から、実態・課題を明確にし、今後の藤沢宿及び、歴史資源を活かしたまちづくりの方向性を考察することを目的とする。

3. 調査地概要

3.1 藤沢宿について

藤沢宿は現在の小田急線藤沢本町駅周辺に位置し、日本橋から一二里一八町（約 50 km）、慶長六年（1602 年）に設けられた東海道第六の宿場で時宗の総本山遊行寺（清浄光寺）の門前町、江の島参拝の中継地として賑わい、人馬中継の間屋や宿泊施設として栄えた。



図 1 藤沢宿(歌川広重『東海道五十三次』より)

3.2 藤沢宿の現状

藤沢宿エリアは藤沢の中心地として長きにわたり発展を続けてきたが、戦後になると市役所が現在の藤沢駅の北口に移転し、行政・商業の中心は藤沢駅周辺に移っていった。

その結果、現在は賑わいが失われている。

3.3 藤沢宿の歴史資源

3.3.1 遊行寺

藤沢宿のシンボルあり、踊念仏で有名な一遍の教えである時宗の総本山である。



図 2 遊行寺本堂

3.3.2 白幡神社

衣川で自害した源義経の首を洗い、祀ったとされる首塚がある。義経とともに戦った武蔵野坊弁慶の慰霊碑もあり義経伝説終焉の地として有名である。



図 3 白幡神社